

明和児童クラブだより

第5号
平成31年2月1日 発行
(文責) 鷲頭

早いもので、三学期が始まりもう少しで1ヶ月になろうとしています。各学校から、インフルエンザの流行の情報が届いてきておりますが、児童クラブの子どもたちは、元気いっぱい生活しています。どうか本年もよろしくお願いします。

明和児童クラブでも避難訓練を実施しました。



一昨日、1月30日(水)の午後4時過ぎには、明和児童クラブでの避難訓練を実施しました。子どもたちは、「お・は・し・も」(押さない、走らない、しゃべらない、もどらない)の約束をしっかりと守って、決められた避難場所に速やかに避難することができました。今回は、火災を想定しての避難訓練でしたが、想定を変えた避難訓練も今後は実施していく予定です。



【約束を守って素早く避難できました】



インフルエンザに注意を インフルエンザによる学級閉鎖の知らせが、明和児童クラブにも数校から届いています。児童クラブでも、今まで以上に手洗い・うがいを励行しています。各学校からも連絡等があったと思いますが、インフルエンザのような症状が見られた場合には、医療機関を早めに受診したり、無理をさせないで休ませたりする等、感染予防へのご協力もぜひお願いいたします。



連絡＝保護者説明会を実施します。

…………… **継続会員の保護者の皆様方も参加できます。**

来年度新会員になる児童の保護者のために、明和児童クラブの保護者説明会を以下の日程で実施します。児童クラブでの子どもたちの生活、必要な経費や諸手続、明和児童クラブの運営や今後についての見通しなどについて、説明させていただく予定です。継続会員の保護者の皆様も参加できますので、希望する皆様はぜひお越しください。なお、継続会員の方と新会員の方の説明の時間帯が異なりますので、ご注意ください。

説明会期日：3月2日(土) 場所：明和幼稚園体育館

**時間：第一部(新会員保護者説明会)午後1時30分～2時45分(予定)
第二部(継続会員保護者説明会)午後3時から3時45分(予定)**

(文責＝鷲頭)

子育てのあれこれ No.3

私自身、我が子の様子を見てきて、いろいろな場面で「もっと意欲的になってほしい」と願うことが何度もあったことを思い出します。保護者の皆様方はいかがでしょう？もっと意欲的になってほしいなどと我が子に対して思ったことはありませんか？

そこで今回は、「**子どもが意欲的になるために**」ということについて**自己選択・自己決定（自分で決めさせること）**との関係からてみたいと思います。

実は、もっと早く知っておけばよかったと後から思ったことの一つに、発達心理学で言われている次のような法則があったのです。

自己選択・自己決定＋共感（心からそれを認めること）＝意欲

これは、子ども自身が自分で決めたことを、親や教師などの大人や友だちがそれを心から認めてあげることで、意欲が生まれていくということを表しています。

しかし、子どもに「自分で決めさせる」と**幼い子どもほど「適切でない選択や決定」**をしてしまうといった**リスクがあるはず**です。そこで、**大人たちに必要とされるのが、子どもの適切な判断を支援するための情報を提供すること**になります。

例えば、「私だったら～のようにするな。」とか、「お母さんだったら～と感じるな。」「お父さんは、～のように思うよ。」とかという言葉で情報を提供していくのです。このような情報提供は、I（アイ）メッセージとも言われています。それでは、自己選択・自己決定について次の事例で考えてみましょう。

事例

小学校3年生のA君は、お正月に多くのお年玉をいただきました。A君は、前々から欲しいと思っていた家庭用ゲームのソフトが3つあったので、いただいたお年玉のほとんどを使ってゲームソフトを買おうとしていました。

母親としては、どうにかそれを止めさせたいのですが、どのような声掛けをすればいいのでしょうか？



例えば、母親の声掛けとしては、「お年玉をくださった～は、それを知ってどんな気持ちになるかな。お母さんだったらこんなふうに使わせていただきましたと、お年玉をくださった～に胸をはって報告できるような使いみちを考えるな。お年玉をくださった～が喜ぶ顔も見たいし・・・」「お母さんだったら、すぐに使わないで、貯金しておくな。ゲームソフトはすぐに飽きてうかもしれないし、もっと多くのお金がないと買えないような、もっともっと欲しい物が、後から出てくるかも知れないしね。」等々です。

そして、ここで**大切なのは、あくまでも判断は自分でさせるということ**です。上記のような声掛けをしたにもかかわらずゲームソフトを買うことを決定したとしてもそれは認めてあげるべきです。ただし、その時に留意するのは、「共感」をしないことです。

子どもは、共感をされなかった経験からも、自分の判断が適切でなかったことを学んでいくのです。子どもが判断ミスをしてつらい目にあうのは、親としてはしのびないことですし、親自身がつらいことです。しかし、そこをどうにか頑張って、「命の危険」などが無い限り、**判断ミスによる失敗を何度も体験させてやることによって、判断力をつけてやる必要**なのだそうです。そして、適切に判断して自己決定できたときに、その**機会を逃さずに共感**してあげれば、意欲的な子どもに育っていくというのです。

心理学の専門家の中には、次のように主張する人もいます。「進学先や職業、結婚など、人生において最も重要なことほど口を出すのが親の務めと考えている人がいるが、それは、大きな間違いである。**人生において、最も重要なことほど、子ども自身に最終決定させることが重要**である。なぜならば、親の考えを押しつけるような決定をさせた場合には、進学先や職業、結婚などでうまくいかないことが起きた時に、親のせいにして逃げてしまうことに必ずなるからである。」と・・・

*参考文献 「『このひと言』で子どものやる気は育つ」「アドラー博士の子どもを勇気づける20の方法」「アドラー博士が教える『失敗に負けない子』に育てる本」（星一郎）、「子どもの能力の見つけ方・伸ばし方」（平井信義）、「図でわかる学習と発達の心理学」（新井邦二郎） 他

